

# 西高の名を全国へ



発行 甲府西高新聞部  
〒400-0064  
甲府市下飯田4-1-1  
Tel055-228-5161(代)  
Fax055-228-5164  
不明な点、誤っている  
点がありましたら、是非  
お近くの新聞部員に  
お知らせください。

## 216号



総文祭の会場で記念撮影をする音楽部員たち

「届けよう和の心 若葉の奏でるハーモニー」をテーマに、第四十五回全国高等学校総合文化祭和歌山大会が七月三十一日(土)から八月六日(金)の七日間にわたって行われた。本校からも多くの文化部が出場した。コロナ禍の中での開催となったが、多くの人の支えによって無事に行われることになった。

和歌山県内の各地で「文化部のインターハイ」とも称される総文祭が行われた。全国各地から優秀な部員が出場する中、我が西高も日頃の成果を如何なく発揮した。音楽部部長の荒井七海さんは、「八月五日と六日の二日間、和歌山県で開催された総文祭の合唱部門に山梨県合同合唱団として参加させていただきました。一日目には交流会があり、和歌山県の高専生たちが暖かく迎えてくれました。全国各地から集まる高校生を見て、コロナ禍であっても合唱を愛する高校生がこんなにもいたのだと、とても嬉しく思いました。二日目は東日本大震災の「鎮魂と再生への祈り」が込められた作品である、『夜明けから日暮れまで』を演奏しました。終わりが見えないこの状況の中で、約90名という大人数で合唱ができたことは、コロナ禍からの復活の一筋の希望を見いだせたのではないかと思います。厳しい制限がある中で、

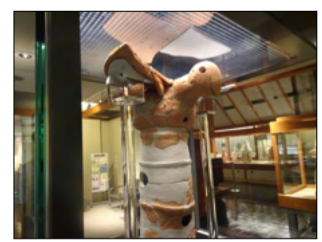
開催に尽力して下さった和歌山県の皆様、その他支えて下さった多くの方々感謝しています。」  
全国のレベルを経験し、多くの刺激を受けたであろう部員たち。この総文祭で各々が得たものをこれからどう部活動に生かしていくか同じ学び舎で過ごす一人として楽しみである。

和歌山県立紀伊風土記の丘は、特別史跡「岩橋千塚古墳群」をはじめとする、和歌山県内の考古資料・民族資料の収集、保存、活用を目的とする場所だ。まず、紀伊風土記の丘で一目立っていた動物や食器の形をした埴輪について説明を受け

た。ガイドの多田羅修さん(76)は「様々な形の埴輪は、被葬者の生前の暮らしを表現している。歴史を調べるうえで、重要なものだ。」と話した。また、馬具を身に付けた馬の埴輪を例にとり、「これは馬の伝来だけでなく、馬の交配や馬具作



りなどの技術を持った人々が大陸から渡来したことも示している。」と語った。他にも、埴輪は権力争いにも関わっていると、大王の死を弔う祭りをうまく主催したものが次期大王の座につく風習があった。」と説明した。



最後に、前山A17号墳は周辺の古墳の中でも最も古い箱式の石棺である。この古墳には古墳時代の

## 総文祭新聞部レポート

### 和歌山県立紀伊風土記の丘を取材して

新聞部では三年一組山本航世、一年三組秋山翔弥が和歌山総文祭に参加して、交流新聞を作成した。交流新聞とは県、学校、学年にこだわらず編成された班でテーマ別に和歌山県内各地を取材し協力して、手書きで新聞を作成するものだ。一年の秋山翔弥の班は「和歌山県立紀伊風土記の丘」を取材し記事にした。今回はその内容をレポートしたいと思う。



## 待望の球技大会

球技大会が十月八日に行われた。本来は一週間前の十月一日に行われる予定だったが、あいにくの天気により延期となった。中止が心配されたが、無事に快晴の下開催することができた。

協力しながら楽しく行うことができた。屋外競技ではキックベースやポッチャなどの競技も学年関係なく対戦し、白熱したものが多かった。特にポッチャはキックベースやバレーに比べて経験したことがある人が少ない競技のため、学年間の力の差がなく、みんな平等に楽しむことができた。どの競技も行っていく中で工夫を凝らし、コミュニケーションもとりながら行うことができた。今年はコロナウイルスの影響もあり、屋外競技以外のほとんどはリモートを通して行われる形となったが、来年はどのような形で行われるのか。感染の心配もなく例年通りに行われることを期待したい。

## 秋季球技大会成績一覧

総合順位	1位 282cm	2年1組
1位	274cm	2年4組
2位	967点	3年6組
GOTOの逆略語クイズ	1位 250点	2年1組
1位	188点	1年5組
ソフトバレーボール	1位 219点	2年3組
1位	188点	3年4組
キックベース	1位 250点	3年4組 3年5組
1位	167点	2年6組 3年2組
ポッチャ	1位 250点	3年6組
1位	188点	2年3組 3年3組

金属製の兜も共に埋葬されていた。ガイドの木村健さん(73)は「埋葬された兜から被葬者は武士のような職業だったと分かる。手柄をたてたことが評価され、埋葬の許可を取ったのだろう。」と話した。私はこのような説明を受けて古墳は、被葬者の生前の営みを示している貴重な歴史資料なのだと思った。

私たち新聞部の部員は一年三組の三名のみだ。そして、皆、運動部に所属している。そのような状況のなかで、新聞を書き上げることはとても大変だ。そこで、私たちは同じクラスの友達に助けを求めた。すると、三名の友達が協力してくれることとなった。これはとても大きなことだった。そして、新体制となって初めての新聞が無事に完成した。しかし、忙しい中、毎回手伝ってもらわなければならない。現在、新聞部は深刻な人手不足に襲われている。このコラムを見て、助けてあげたいなと思ったこのあなた。何か文が書きたくてうずうずしているあなた。是非、入部を検討してみてください。どうだろうか。(秋山)

# 夢と希望の学び舎

## 西高の原点、そしてステージへ

我が新聞部は「N-stage」の由来について「N-stage」や西高新聞に掲載されている西高のマークの正体に疑問をもち、真相を探るべく取材を行った。

西高の広報誌である「N-stage」。「N-stage」は西高の「N」部活動や行事、進路など、甲府西高等学校での学校生活の魅力が満載の広報誌である。(ホームページ参照)。皆さんは「N-stage」という名前の由来を知っているだろうか。今回、その由来を探るべく、本校に最も長く勤務されている齋藤正樹先生に話を伺った。



N-stage は約16年前の2005年、つまり今の高校一年生が生まれた年に、その時就任していた校長先生により発案された。

たものだ。stageには複数の意味が掛けられていた。

(甲府西高高校生徒会誌「鳳凰」参照)。まず、前提として「立っている場所」が原義とされている。そのなかで三つの意味がある。一つ目は舞台ステージ(世界の象徴)として、二つ目は(活動)の舞台、場所として、三つ目は(発達・発展などの)段階、時期としての意味だ。つまり、N-stageには部活動や生徒会活動にも一生涯に取組み、自分の可能性を見出し、幅広い人間性を身に付けていこうとする生徒のためのステージという意味が込められている。また、主な用例として、「N-stage 西高生の

## 進みゆくIB授業

山梨県立甲府西高等学校は、2019年四月一日に、国際バカロレア(以後IB)機構により、IBワールドスクールに正式に認定され、2020(令和2)年度入学生からIBディプロマプログラムが開始された。(現・二年次生にあたる)それと並行し、本校では、高等学校学習指導要領の改訂、大学入学者選抜の改革などの状況を見極めながら、これからの時代に必要とされる学力をすべての生徒に確実に育成するとともに、時代の変化に対応した柔軟な思考力を育

ている。IBワールドスクールは、「質の高い、チャレンジに満ちた国際教育に信念をもって取り組む」という理念を共有する学校。創立115年を超える本校の教育目標は「自主・自律の精神と創造性を尊び、幅広い知性と豊かな人間性の涵養を図るとともに、常に自己と社会をよく見つめ、高い理想のもと広く社会で活躍する人材を育成する」です。本校の教育目標と国際バカロレアの目指すものには、重なり合う部分が多く、全日制単位制高校としての甲府西高

校の特色と、IBワールドスクールの特色がお互いを高め合いながら、生徒によりよい教育を提供していきます。国際バカロレアの特徴的なメリットの一つとして、国際的な認知度の高さが挙げられます。例えば2019年時点で、5000校のIB校(IBを実施している学校)が150カ国以上にあります。イギリスやオーストラリアなど、世界中の多くの大学でIBDPを大学入試の代わりとして使えます。

一方で日本でのIBの知名度が上がっているのは大学間でも同じです。受験でIBを使うメリットも他国と

比べると薄い印象を受けます。国際バカロレアは国内での認知度が低いので、多少なりともデメリットとなる場合もあると考えられます。西高のDPでは、「英語」と「美術」の授業や試験は英語で行います。他科目は日本語で行います。そのため、進学先としては、海外大学に限らず、日本の大学も考えることができます。国公私立大学の「IB資格利用の入試方式(各大学呼び名が異なります)」「総合型選抜」などは、DPで培った思考力・論述力・活用力が特に発揮できる入試方法です。西高のIB教育により新しく導入される前期募集

選抜方法として、「普通科C」が出来ました。志願してほしい生徒像は、「中学校の学習成績が優秀で、卓越した英語力を有し、国際バカロレアの教育プログラム等を通して、自らの学びを充実させようとする意欲のある者」とされ個性表現として英語によるプレゼンテーションを含む面接が十分に行われます。自分で考えたものを表現する、というこれからの時代には欠かせない力が試されます。西高のIB学習を多くの人が知ってもらうためにも、IBにより人生を豊かにするために、是非とも志願者が現れてほしい。

## しなやかな心の育成

しなやかな心の育成講演会を十月十四日(木)一年次生を対象に行われた。講師には元本校校長であり、現在は山梨予備校の校長である齊木邦彦先生をお招きし、困難や挫折をどのように乗り越えるかという話を、先生の実験の経験をもとにお話をいただいた。生徒自身も、諦めずに粘り強く取り組むことの大切さを改めて学ぶ良い機会となった。今回の講演では、学ぶということが題材とされ、その中でも三つ、学びの根源であることを聞いた。

(1) まる暗記することの効果は大きい意味をたえず問いつける

○古えの学ぶ者は己ののためにし、今の学ぶ者は人のために。

○天の命するをこれ性と謂(いう)。性に率(した)が(う)をこれ道と謂う。道を脩(修、おさ)むるをこれ教(おしえ)と謂う。

齊木先生はこの言葉を学生の頃読んで、なんとなくいいな、とだけ思っていた。覚え、絶えずその言葉たちの意味を考え続けた。そして本当の意味を知った今、齊木先生は、○○と、考えている。

(2) ながい目で見る

↓歴史を受け継いでいこうとする。今日を大切に

○歴史を受け継ぎ、それをまた次の世代へ手渡す



講演会中の齊木先生

存在として自らを捉え直すのがよい。それは、個人でできることの狭さのなかに住まないことだ。どんな分野の学芸であれあなたが道を歩むその前には、何万もの青春、何万もの吐息があった。今を生きて創作するのは、彼ら彼女らの思いとともに歩むことでもある。万もの吐息があった。今を生きて創作するのは、彼ら彼女らの思いとともに歩むことでもある。万もの吐息があった。今を生きて創作するのは、彼ら彼女らの思いとともに歩むことでもある。

○情報社会に生きる難しさ。一步を踏み出す勇氣は、飛び越える壁の向こう側にある。言葉は個別状況を切り捨てた一般概念。言葉から置き去りにされても自分を信じる。自分の人生を宿命(天命)と捉える。しなやかな心とはそういう心の状態を指すと考える。自分の宿命を生きている感覚は、選択と後悔に悩む人生に最高の自由をもたらす。

○教科・科目の勉強は人生における最も大切な勉強である。知識や経験は内容が忘れても心の広がりとして残り、人生に覚悟(と落着き)を生む。人生というの一度きりで二度目はない。よって、人生で起こりうる全てのことは本番であり、準備という段階はないのである。過去に学び、今をつくり、未来を想像する。今を生きるものにとっ

て、それが何よりも大切なのである。

これら三つのこと以外にも大変なことになる話を聞いた。一年次生の中からは、非常にたくさん聞かされたように感じられる。お忙しい中、西高をよりよくしようという一心で講演会をしてくださった、齊木先生には感謝しきれない程のものがある。

(1) まる暗記することの効果は大きい意味をたえず問いつける

○古えの学ぶ者は己ののためにし、今の学ぶ者は人のために。

○天の命するをこれ性と謂(いう)。性に率(した)が(う)をこれ道と謂う。道を脩(修、おさ)むるをこれ教(おしえ)と謂う。

齊木先生はこの言葉を学生の頃読んで、なんとなくいいな、とだけ思っていた。覚え、絶えずその言葉たちの意味を考え続けた。そして本当の意味を知った今、齊木先生は、○○と、考えている。

(2) ながい目で見る

↓歴史を受け継いでいこうとする。今日を大切に

○歴史を受け継ぎ、それをまた次の世代へ手渡す

自己を深める。自分の知らない自分というものを尊重すること

○自分を根底で支えている何かの存在を信じる。それはすべての人に共通な何かである

○情報社会に生きる難しさ。一步を踏み出す勇氣は、飛び越える壁の向こう側にある。言葉は個別状況を切り捨てた一般概念。言葉から置き去りにされても自分を信じる。自分の人生を宿命(天命)と捉える。しなやかな心とはそういう心の状態を指すと考える。自分の宿命を生きている感覚は、選択と後悔に悩む人生に最高の自由をもたらす。

○教科・科目の勉強は人生における最も大切な勉強である。知識や経験は内容が忘れても心の広がりとして残り、人生に覚悟(と落着き)を生む。人生というの一度きりで二度目はない。よって、人生で起こりうる全てのことは本番であり、準備という段階はないのである。過去に学び、今をつくり、未来を想像する。今を生きるものにとっ

て、それが何よりも大切なのである。

これら三つのこと以外にも大変なことになる話を聞いた。一年次生の中からは、非常にたくさん聞かされたように感じられる。お忙しい中、西高をよりよくしようという一心で講演会をしてくださった、齊木先生には感謝しきれない程のものがある。

# 輝け！更なる高みを目指して

## 仲間と奏でる 最高のハーモニー

校舎に吹き抜ける歌声はいつも私たちに心地よい安堵をもたらせてくれる。新型コロナウイルスにより歌う機会が激減している今、西高の音楽部ではどのような活動をしているのだろうか。音楽部の部長である荒井七海さんに普段の練習の様子について伺った。

### 活動の様子



「音楽部は現在は一、二年生16名で各種コンクールや演奏会に向けて、本格的な合唱曲から70年代まで、幅広いジャンルの曲を練習しています。新型コロナウイルスにより合唱活動が制限され、ステージ上で心置きなく歌えることがどれほど幸せなことであったかを再認識しました。最近では十一月の芸文祭に向けて、発声を強化中です。合唱という、地味なイメージがある方が多いかと思えます。しかし、それは

中学生のクラス合唱、学年合唱程度の規模の話です。合唱をしていると、自分の声と隣の人の声、全体の声もピタリとハマって混ざり合い、ひとつの美しいハーモニーになる瞬間があります。それは演奏している自分自身も鳥肌が立つぐらい感動する瞬間です。私はそれが合唱にハマった瞬間でした。どうですか？合奏って、一度ハマったらこんなにも楽しくて

奥深いんです。少しでも興味をもったそのあなた、そして歌うことが好きなあなた、ぜひ音楽室の戸を叩いてみてください。個性溢れる部員たちが手招きをしてあなたを待っています。また、音楽部の演奏を聴いてみたいと思ってください。一方と成長した音楽部による定期演奏会が三月に開催されるのでぜひお越しください。」とのことだった。学年の垣根を越えた、明るく温かい雰囲気のある音楽部。これからはもう皆さんの音楽を私たちに届けて欲しい。



先日行われた山梨県高等学校陸上競技新人大会で、我が西高が誇る陸上部の精鋭達が輝かしい成績を残した。特に、今回新聞部が注目したのは、男子1000M七位という結果を残した期待の一年生だ。「まだまだ課題は山積んでいます。」陸上部一年功刀稜は謙虚に語る。

陸上は中一から始めた。小さいころから足が速く、小六のときには市の陸上記録会で60Mハードル一位という好成績を残した。中学では、レベルの高い仲間たちと和気あいあいと練習し、個人やリレーでも県で上位に食い込んでいた。「中学の時も県で優勝するような仲間もいましたが、西高にはレベルの高い先輩方やタメの奴らが多かったです。また、僕の中で『エース』というのはチームの軸である重要な役割でした。どんな試合、どんな状況になっても、チームを支え続ける存在である、崩れず強くマウンドに立つ、と心に決めて頑張ることが出来ました。甲府西高校というチームを優勝に導くためにも精一杯投げかけることができて良かったです。」と語った。

先日の大きな目標としては、来年五月の県総体で六位入賞して南関東大会に出場すること。そのために、「厳しい冬練に耐えバネの使い方などの技術を向上させたい。」と強く語る。大会でのリレーの様子



## ★ 青天を駆け抜けろ

インタビューしても時折お茶目な一面を見せるが、いざという時の生真面目さと勝負強さには定評がある。そんな功刀君が県のレースでトップを駆け抜ける日もそう遠くないかもしれない。



駅伝会場で記念撮影をする部員たち

### マウンテンに輝く白球

西高野球部は西高の中でも特に力を入れている部活である。放課後は毎日遅くまで練習をし、休日も朝早くから練習を始めている。野球部の中には推薦での入部も多く、たくさんの生徒の憧れとも言えるだろう。今回、夏

の大会でエースとして活躍した、野球部の期待の一年生ピッチャー 雨宮佑貴君は「僕は、夏の大会で、エースナンバーを背負った先発メンバーとして選ばれたことを嬉しく思っています。同時にとても驚きました。しかし、エースとして選ばれたからには、「一年生だから」といった学年のあいだの隔たりをなくして、フラットなチームを目指



しました。また、僕の中で『エース』というのはチームの軸である重要な役割でした。どんな試合、どんな状況になっても、チームを支え続ける存在である、崩れず強くマウンドに立つ、と心に決めて頑張ることが出来ました。甲府西高校というチームを優勝に導くためにも精一杯投げかけることができて良かったです。」と語った。

### 野球部の大会結果

- 夏の大会
  - 7月12日(月) 塩山vs甲府西 9対3
  - 7月16日(金) 日本航空vs甲府西 11対0
- 秋の大会
  - 9月19日(日) 山梨vs甲府西 6対5

### 陸上部の主な成績

男子110mハードル	決勝1組	1位	小林 竜士朗	竜士朗
男子走り幅跳び	決勝1組	1位	小林 竜士朗	竜士朗
男子3000m障害	決勝1組	3位	鴨作 明育	明育
男子100m	決勝1組	7位	功刀 稜	稜
男子200m	準決勝1組	7位	功刀 稜	稜
女子1500m	決勝1組	6位	武井 アンリ	アンリ
女子3000m	決勝1組	6位	武井 アンリ	アンリ
男子4×100mリレー	決勝1組	5位	甲府西 小林竜 功刀 小林太 半田	小林太 半田

### 有難い寄贈品

先日、本校へ絵画作品が寄贈されました。本校美術部の卒業生からなる、「西美会」という組織があり、毎年展覧会などを実施しています。その西美会では長年顧問を務めていた早川先生より作品を寄贈していただきました。現在鳳凰館の階段側壁に展示しています。100号サイズ(1620×1120)の大作で、重厚な油絵の画風の作品となります。奥深い色使いがとっても魅力的です。鳳凰館へお立ちの際はぜひご観覧ください。タイトルは「階段のある街」作者は、日展会員、東光会会員・審査員、山梨美術協会顧問、青樹会会員を務めている早川二三郎氏です。

# どうなるか生徒会

生徒会長  
二年六組  
西山 遥佑久

生徒会副会長  
二年六組  
谷口 真凜

生徒会副会長  
二年五組  
佐藤 歩武

新体制となった甲府西高校生徒会。そして、この生徒会に直接、質問したい生徒は少なくないだろう。そこで、我ら甲府西高校新聞部が質問するに決めた。

Q. 生徒会を運営するうえで、やりがいを教えてください。

A. 仕事が多く大変な部分もありますが、周りの人に「楽しかった」「助かった」と言った言葉をかけてもらえることや、頑張って良かったなど思っています。

Q. 昨日行われた生徒総会について、運営する側として大変だったことや苦労したことはありますか。

A. リモートで意見を集め、対応することが難しかったです。音声や映像が届かないクラスがあ

るなど、満足のいく返答や対応が来なかった部分がありました。次回に生かしたいと思っています。

Q. 設置された意見箱について、具体的にどのような質問・意見が多いですか。

A. まだ全ての階に設置出来たわけではありませんが、部活動に関する物が多いです。より多くの意見を集められるよう工夫していきます。

Q. 球技会を振り返って成功した点とあまりうまくいかなかった点はありますか。

A. 成功した点は、感染症に配慮しつつもリモートで行う球技大会という前例を作れたことです。反省点は、リモートでの3グループ同時進行が想定よりも難しかったことです。パソコンが固まってしまうなどで進行が遅れてしまいました。また、球技は行える種目が限られてるので案を出すのが苦労しました。三月の球

技大会では改良を加えたいと思います。

Q. 活動中の思い出話、またちょっと笑ってしまったような体験などはありますか。

A. 意見箱制作中に不器用か器用かがハッキリしました。会長は器用で自分(副会長)は壊滅的な不器用です。また、リモート会議中にミュートの切り忘れが多発しました。

Q. 最後に今後生徒会として力を入れていきたいもの、後輩たちに残したいものを教えてください。

A. 今後も意見を反映した環境づくりに力を入れて、過こしやすい西高を目指していきます。

後輩には、自分達の代で感染症に配慮して、より自由度の高い生徒会活動を行える環境を残したいです。また生徒会ソウルを受け継いでもらいたい

です。生徒会ソウルとはどんな逆境にも挫けない熱い心と、周りを気遣い率先して行動する積極性が融合したモノです。

## 部説

「凄い人ばっか。」こんな言葉を西高に入学してからあちこちで耳にする。行動範囲も顔も広くない自分だが、自ら咬いた分も含めてすでに100回以上聞いた気がする。そんなハイスベックが集う学校を盛り上げていくには、全校生徒一人一人の意識は大前提として、リーダーの手腕が問われる。過日、結成された、



引用: <https://prcm.jp/alb/am/01011214/pic/49794337>

実施された球技大会や生徒総会では段取りや進行に多くの厳しい意見が聞かれた。生徒会の優秀なメンバーへの期待は大きい。そんな中で全校の指揮をとるのは並大抵のことではないだろう。全校生徒や先生方の協力にも頼り、ぜひ「チーム西高」の力を見せてもらいたい。最後に、西高の益々の盛り上がり願って、大人しめの新聞部も声を張り上げたい。

### 今回の選挙の投票数

西山	信任556	(589票中)
谷口	信任571	(586票中)
佐藤	信任564	(589票中)

## 西高OBの先生、今と昔を語る！ 第九回 中島 勲 先生

今回は1993年度卒業、教諭の中島勲先生(英語)にお話を伺いました。

Q. なぜ西高に進学しようと思ったのですか。

A. まず、私たちの頃は甲府では五つの高校の中から自分の行きたい高校を選択する総合選抜制が採用されていました。そのなかで、西高を選択した理由は家から近く、身内に勧められたからです。

Q. 当時はどんな生徒でしたか。

A. 普通の生徒でした。弓道部に所属していたため土日は部活をしていました。そして、放課後は塾にいらっていたため、ある休日には私服を着ない生徒でもありました。

Q. 当時の校風は今と比べてどうだったか。

A. まず、西高に赴任してから今と昔を比べることが多く

なりました。変わらないところとしては、自由なところと、強豪校ほど部活を本気でやっていたのではないですが、一回戦では負けないところです。異なるところとしては、課題や模試については、昔は課題がほぼなく課題という言葉すらないほどでした。模試もありありませんでした。

Q. なぜ高校の英語教師を志したのですか。

A. 理由としては英語が好きだったからです。高校の初めの頃は中学校の英語教師になろうとしていました。理由は行事、部活を楽しく行いたかったからです。しかし、初めて勤務した東京の私立高校で高校での指導に面白みを感じ高

校の先生になろうと志しました。

Q. 先生にとって勉強とは何ですか。

A. 周りの変化とともにしながら今と昔を比べることが多く

愛いし、歌も勉強も出る完璧な女の子って感じかな。とにかく理想の女子〜と、とても慕われている。

今回は、そんな遥花さんに我が新聞部が独占取材してきた。

遥花さんは、小学四年生からライブ活動を始めたそう。初めは遥花さんの家族でバンド活動をしていて、今は校内アーティストとライブ活動も行っている。イベントやパーティでの依頼演奏で、

歌った経験もあるらしい。また、遥花さんは数々の実績を残している。ON H Kのと自慢2019年に出場&合格②第二回オンラインミュージックコンペティション金賞2020U18 ボール&ダンス選手権2020歌部門ファイナリストなど。同じ学舎にこんなにも素晴らしい人がいた、ということを知っていたらどうか。

遥花さんの夢は歌手になること。実力も人望もある彼女なら、必ず夢を叶えるだろう。

近い将来、遥花さんの

Instagram...haruka.mou

遥花さんの歌声が聴けます!!

サインをもらいに人が殺到する。なんてことがあるかもしれない。

八月十四日。U18 ボール&ダンス選手権にて、椎名林檎の名曲をcoverした素晴らしい歌声を披露した人物がいた。その人物こそ、「あるぼか」のボーカルである見代遥花さんである。

彼女は2005年生まれの16歳で、歌手志望の本校一年生。力強く美しい歌声とは裏腹に、クラスメイト達からは、「可

新体制になり、一年生三名だけとなって初めての四面の新聞。クラスメイトの力を借りながら、共に多くの時間と努力、そして青春をこの新聞に投下した。

先輩がいらないため、自分たちだけで試行錯誤しながら作り上げたこの新聞。拙いけれど、多分中身はちゃんとしているの

でも、読んでいただけるととても嬉しい。

編集後記

新体制になり、一年生三名だけとなって初めての四面の新聞。クラスメイトの力を借りながら、共に多くの時間と努力、そして青春をこの新聞に投下した。

先輩がいらないため、自分たちだけで試行錯誤しながら作り上げたこの新聞。拙いけれど、多分中身はちゃんとしているの

でも、読んでいただけるととても嬉しい。



中島 勲 先生